

2017年3月16日

内閣総理大臣 安倍 晋三 様
厚生労働大臣 塩崎 恭久 様
防衛大臣 稲田 朋美 様

大幅増員・賃金改善と戦争法廃止を求める 3・16職場アピール

福祉の仕事に誇りを持ち、やりがいを感じていても、辞めたいと思うことがあります。実際に、退職していく人があとをたちません。他産業に比べて月10万円も低い賃金では、将来を見通した生活がおくれません。不規則な勤務の上に、休憩や休暇も取りづらく、時間外での手当のつかない仕事に追われています。職員を募集しても応募がなく、常に人手不足で、求められる役割は増え続けています。一人ひとりに負担が重くのしかかり、もう限界です。

子ども・高齢者・障害者を支える福祉職場では、安心して権利としての福祉を受けたい国民の期待が高まっています。ところが、「基本は自立・自助」「家族の助け合い」を強調する政策と予算の抑制がすすめられ、現場の人材確保難は深刻です。安倍首相は、来年度から保育士や介護職の処遇改善をおこなうとしていますが、月10万円の賃金格差を解消するにはほど遠い内容で、職員の増員も位置づけられていません。

国の制度にもとづく社会福祉事業でこのような危機的状況が広がっていることは、あつてはならないことです。処遇改善を求める声が社会的に高まっていることを踏まえ、政府は責任を果たし、抜本的な対策を打つべきです。国民のいのちとくらしを守る私たち福祉労働者には、継続性と専門性が求められます。希望をもって安心して働きつづけられる労働環境を保障するためには、大幅な増員と賃金の改善が必要です。

また、福祉の前提となるはずの平和もおびやかされています。私たちは、昨年成立した憲法違反の安全保障関連法によって「戦争をする国づくり」がすすめられ、南スーダンに派遣された自衛隊が「殺し、殺される」ことを強く懸念しています。さらに、憲法自体を変える動きに対しても、憲法の遵守を強く求めています。

福祉職場で働く私たちは、もう黙ってられません。きょう、私たちは国に対して、職員の大幅な増員、賃金の改善、戦争法の廃止などを強く求め、ストライキを含む全国いっせい行動に立ち上がりました。全国の仲間と「力をひとつに」、要求実現にむけて声をあげ、たたかっていきます！

全国福祉保育労働組合

《私たちの声》